

日系など157社が環境製品をアピール=エコプロダクツ国際展が開幕 - ジャカルタ

【ジャカルタ時事】インドネシアの首都ジャカルタで4日、アジア最大級の国際環境展示会「第6回エコプロダクツ国際展」が開幕した。日本のアジア生産性機構（APO）、インドネシア商工会議所（KADIN）、同国生産性本部の共催。「緑の生産性 - 競争力強化を目指して」をテーマに、過去最高の157社・団体（うち日系35社・団体）が参加している。

各参加者は7日までの会期中、環境配慮型の製品などを展示するほか、ワークショップや討論会も開催。三洋電機はこの日、主力製品の太陽電池、二次電池、業務用省エネ機器を合わせた「スマートエネルギーシステム（SES）」事業を発表したほか、花王はさすがに1回で済む液体洗剤、日系家電各社は省エネ家電などを展示した。

ハッタ調整相（経済担当）は開会式で「すべての生態系と地球は自然の体系において1つの共同体である」とし、「環境保全はすべての国民、産業界、地球上の人間の責務だ」とあいさつ。政府は国民の教育と行動変革、地球救済に向けた継続的なパートナーシップ構築を約束すると述べた。

準備委員会の北山禎介委員長（三井住友銀行会長）は開会式後の会見で、多くの政府関係者の出席に謝意を表明。展示会を通じ、国民の環境意識向上を期待すると述べた。

東京大学の山本良一教授は、この日発表したデータブック「エコプロダクツディレクトリー2010」を紹介。データブックには環境にやさしい材料、部品、製品、サービス計1000点を収録した。

KADINのゴベル副会頭は「環境に関連した製品や技術を国民に知ってもらう絶好の機会だ」と説明し、特に産業界関係者の省エネ意識向上に期待感を示した。



多くの来場者でにぎわうエコプロダクツ国際展の会場 = 4日、ジャカルタ（時事）



【ジャカルタだより】イムレック

今年のイムレックは2月14日。その前日はジャカルタの家に早めに帰り、義理の両親の住むバンドンへと車を飛ばした。イムレックの前夜は大家族そろって中華レストランで夕食会。これは毎年の行事でもある。

テーブルには中華料理のコースがずらりと並ぶ。お正月なので、派手な赤のランブがついた花の飾りが珍味の皿に載っている。日本人のわたしには、赤と金の飾りが少しなじめない。料理の味の方は今年は賛否両論。素材が高価なことは理解できるが、インドネシア風だった。

それから義理の両親の家で香港のテレビを見た。どうやら日本の紅白歌合戦のような番組だ。12時をすぎ、元旦を確認し、おめでとうのあいさつと共に、縁起の良い赤い袋に入ったアンパオ（お年玉）を子供たちに配る。日本に比べれば少ない5～10万ルピア（500～1000円ほど）がわが家の相場だ。

その朝は、義母特製のウズラのゆで卵入りにゆうめんを長寿を願って食べる。何だか日本の年越しそばのようだ。インドネシアで華人文化が自由化されてから10年。日本のお正月と同様に、イムレックは華人にとって特別な日であった。（井手口）